

仏教の守護神として毘沙門天がいます。

もともとはインド神話の財宝の神で「クベーラ」といいました。別名「ヴァイシュラヴァナ」この読み方を音写して、中国で毘沙門天と呼ばれるようになります。また、その意味が「多く聞く者」という事から多聞天^{たもんてん}とも呼ばれます。仏教では、四天王のお一人で北方を護る神として知られ、多くの夜叉(やしや)・羅刹(らせつ)を率いて、仏法を守護し、福德を授けるとされました。

日本では四天王のお一人の場合には多聞天、単体で祀られている場合は毘沙門天と呼ばれているようです。その甲冑^{かっちゅう}を身にまとい、片手に武器である戟(げき)をもったお姿からもわかるように、戦いの神として上杉謙信など武将の信仰を受けており、古くは坂上田村麻呂^{さかのうえのたむらまる}の信仰(しんこう)も伝わっています。また室町時代後期頃から七福神のお一人として数えられるようになりました。

元々の、財宝の神としての存在が、仏法の守護神となり、それから、戦いの神としてあがめられ、七福神となってからは、願いを叶え、災いを除く、様々な福德を与える存在となっています。

このように毘沙門天が、様々なご利益をもつ存在となったというのは、人々の願いがあったという事でしょう。インドの神話の時代から始まり、様々な人々の苦しみがあったという事です。貧困や、飢餓に苦しむ人々は財宝の神を求めるでしょう。戦乱の中で生き延びるためには

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

戦いの神を求めるのでしょうか。

その時代その時代の人々の苦しみの中で役割が増えてきたと言えるのではないのでしょうか。

七福神巡りができる地域が近隣にあったらお詣りしてみてもいいのではないでしょうか。

御朱印を授かるのも楽しいかと思えます。古の人々からの心の底からの願いの繋がりを感じながら。

— 終 —